(1) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

[®]公開特許公報(A)

昭58—190953

6)Int. Cl. ⁹ G 03 G 5/06 識別記号 103 庁内整理番号 7124-2H ❸公開 昭和58年(1983)11月8日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 17 頁)

の電子写真用感光体

②特 頭 昭57-73075

②出 踱昭57(1982)4月30日

砂発 明 者 佐々木正臣

東京都大田区中馬込1丁目3番

6号株式会社リコー内

⑩出 箙 人 株式会社リコー

東京都大田区中馬込1丁目3番

6号

②代 理 人 弁理士 小松秀岳

辩题言

1、発明の名称

置子写真用感光体

2. 特許請求の範囲

等電性支持体上に下配一般式(f)で表されるスチルペン化合物を少なくとも1つを有効及分として含有する販光器を有することを特徴とする電子写真知識光体。

$$\bigcirc - CH = C - \bigcirc R^{1} - N < R^{2} - (1)$$

ただし、R * は水漿原子、アルキル基、ア ルコキシ基またはハロゲン原子、 R * 及びR * はアルキル系、腹換 もしくは無値換のアラルキル族 または避換もしく複光度換のア

> R • は水素原子または信換もしく は無数数のフェニル基を表わす。

3、発明の評議な説明

本発明は電子写真用螺光体に関し、詳しくは 感光層中に特定のスチルベン化合物を含有させ た電子写真用螺光体に関する。

このような電子写真核において感光体に要求される基本的な特性としては、 (印度所で過当な電位に搭載できること、 (印度所において電荷の 送散が少ないこと、(印光照射によってすみやか に電荷を送散せしめうることなどがあげられる。

抬腿昭58-190953(2)

近年、これらの無限物質の欠点を持続するためにいるいるな有機物質を用いた電子写真用感光体が登案され、実用に供されているものもある。例えば、ポリーN-ビニルカルパソールと2.4.7-トリニトロフルオレン・9-オンとからなる感光体(景質特許部 3484237月的物質に

だが、これまでに強けた感光体は、いずれも目的により又は関作方法により違いはあるが、一般的にいって 養れた光導器性物質を使用することによって 食好な特性が終られるものである。 本 毎 明 皆 は 、 多くの 光準 電性物質 についての研究、検討を行なった 植泉、下記 一 級 民 (])

$$\bigcirc - CH = C - \bigcirc - N - N - (I)$$

・ただし、R・は水素原子、アルキル基、ア
ルコキシ基またはハロゲン原子、
R・及びR・はアルキル基、酸物
もしくは熱調換のアラルキル基
または販挽もしくは無路換のア

R・は水景原子または豊奥もしく は無関係のフェニル甚を表わす。

で表わされるスチルベン 化合物が電子写真用感 光体として有効に最らくことを見出した。 更に また、このスチルベン 化合物は、後述から明ら かなように、いろいろの材料と組合されること によって予期しえない効果を育する感光体を作 成しうることをも見出した。 本海明はこうした 知見に基づいて完成されたものである。

しかして、本発明の目的は、 先に述べた従来 の顕光体のもつ個々の欠点を解謝し、 健子学典 法において受求される条件を充分に満足しうる 感光体を提供することにある。本発明の他の自 的は、製造が容易でかつ比較的安価に行なえ、 耐久性にも優れた電子写真用感光体を提供する ことにある。

即ち、本発明は審理性支持体上に感光照を設けた君子写真用感光体において、前記感光静中に上記の一般式(1)で表わされるスチルベン 化合物を含有することを特徴とするものである。

以下に本発明を関配を容限しなからさらに詳細に説明する。第1四ないし第3回は本発明に供明なる。第1四ないし第3回は本発明に供る感光はの代表的な三例の新面図であり、そこに付された意思で1は準理性支持は、2、2、2、2、は感光器、3は複符発生物質、4は環符般送媒体又は電符激送機、5は電荷発生器を安わしている。

本発明で向いられる前記一般式(『)で示され スチルベン化合物は、下記一般式(『)

抑聯58-190953 (3)

ロゲンイオンを示す〉で扱わされるトリフェニルホスホニッム基又はPO(OR) ₹ (ここでRは低級アルキル基を示す)で表わされるシアルキル亜線機器である]

で表わされるフェニル誘導体と下記一般式(質)

「氏中尺」は水兼原子、アルキル基、アルコキン美またはハロゲン値子、

R 2 およびR 3 はアルキル越、雷挽もしく は無関係のアラルキル基または関換もしく は無関係のアリル基、

R 1 は水魚原子または胃液もしくは処理袋のフェニル基を表わす〕

で表わされる<u>カルボニル化合物とを反応させる</u> ことにより得ることができる。

こうして得られる一般式(【)で表わされる スチルベン化合物の具体併を以下数1に例示す・

€ 8 80 86	R'	-@√ ^R ,	R'	Ri	R'
1	Н	4	-CH³ (O)	-¢H: 🔘	14
2	2-CHs	4	CH2 (Q)	-CH:	Н
3	3-CH3	4	-CH2 🙆	-GH+ (C)	н
4	2-C: Hs	4	-≎н₁ 🚳	-CH: (①	н
5	3-C: Ha	4	-CH₃ (-CH3 (○)	н
6	2-CA	4	-сн₃ 🔕	-сн≀ 📀	н
7	⊁C#	4	-сн∙ ⊘	-сн ₂ ⊚	Ħ
8	2-GCH1	4	-0Hz 🚳	∽сні́ ⊚	н
9	3-0CH1	4	-CH3 🕝	-CH2 (©)	н
18	1-001 Hs	4	-сн∙ 📀	~сн• ⊘	1-1
11	3-OCz Hi	4	-CH2 (O)	-СН≀ 🕢	11
72	н	4	сн. 🕖-сн.	-сн» (<u>О</u> -сн»	н :

化合物	R'	- ⊘ w	1.	٤,	R*	1£ ♣ \$5	R'		, Έ	R)	R٠
13	н	4	-cn-©	-GH₂(O) OH₃	Н	23	2-GH;	4	9	-сн₂ (б)-сн;	11
16 ,	н	4	–¢н₂(Ō)	-CH2 ○H3	H.	74	2-CH3	4	-сн∙ © сн₁	-cus ℚ cus	н
25	н	4	-CH1-Q)-C1 H1	-сн.⟨⊙≻с. н.	Ħ	25	2-CH ₃	4	-¢H3 (◎)-65H7	-CH1 (-OCH)	11
16	н	4	-ċн ∗ ⊚		н	20	2-CH2	4	-си• @≻ос• и•	-CH3 (Q-0C) H	. 11
			Ĉ≀ H5	-cH2 €1 H2	••	27	2-¢H±	4	-CH: (Q)-C#	-CHI O-GE	Н
17	н	4	-CH1 (Ø)	−¢Hr (O)_Cr H	н •	28	2-CH3	4	-CH+ (O)	-ch; (i)	al
18	H	4	-CH3 (○)-C‡	_	4	29	2-0CH	. 4	-cH₂ Ø-cH₃	-сні (О-сні	91
19	н	A	-ch≠⊚ c≉	-CHr O CR	H	20	⊁ 004	, 4	-сн [,] (О) Сн [,]	-ch, (Q)	н
20	H	4 .	~CH₂(O) C €	-сн ₂⊙	н	31	2-0ÇH	• 4	-CH7 (O)-C7 H:	-CH+ (O)-C++1	, 11
21	н	2	-0H₃ (⊙)	-сн₂(б)	н	¥	2-C#	4	- CH1 (Q)- CH1	_	11
22	н	3	-cH3 ②	-сн∗⊚	н	33	ş-Gş	4	−CHs (O)	-CH 2 (Q)	16

母鄉258-19	0952 ((4)
----------	--------	-----

									持	Æ58- 1909 5 3 (4)
化 含 物	R'	~@}v(^R ,	RP	R*	ĸ•	化金数	R'	-@r(R* R' R'	R+	ĸ.
<u>80</u> 의 5-	CH:	4	-CH2(O)-CH3	-chi(O)-chi	н	48	Н	4	-CH (CHs) GHs	-CH1 (Q)	+1
25 3.	CH ₂	4	-сн₂⊘	-сн₂⊘	н	47	н	2	-CH3	-CH1 🙆	11
				CH ₂		48	H	3	-CH3	-CH3 🔘	н
33 3-	-CH+	4 -	-сн√⊙-с∙ н∙	-CH3(Q)-C3 H	, H	49	2-CH3	4	-CH2	-сн₁ 💿	H
31 5.	OCz H	4	-CH3 ⊘- CH4	-CH5(O)-CH?	н	50	2-C+H+	4	-CH ₂	-CH2 (Q)	ŧI
38 3-	CE	4	-CH2 OH3	-GH₂ <mark>©</mark>	н		2-C.E	4	~CHs	-сн≀⊚	Ħ
39 3-	-G <i>2</i>	4	-сн•⊘~с≀на	-cн:@-c: н	s H	52	2-C: H:	4	-CH ₃	-GH+ (O)	Н
40	н	2	-сн₂҈О-сн₃	-сн.(О)-сн.	н	53	2-QGz H	. 4	-CH:	-CH2	Н
41	н	3	-сн₂⊘-осн₂	-сн₂@-осн	. H	54	2-CH1	4	-CHs	~сн₂ <mark>©</mark> >сиз	H
42	н	4	-сн.	-он₃ 💿	н	SS	2-GH:	4	-CHa	-сн₃⊘ Сн₃	11
43	н	4	-C+ H1	-сн, 💿	н	58	2-CH3	4	-Ca Hs	-¢H₂∕Ø>-0H₃	H
44	н	4	- (CHz) + CH+	-сн₂⊙-осн₃	н		2-00H1	4	CHi	-сн ₂ (<u>О</u>)-осн ₂	
45	н	4	- (CH2) : CH5	-cH: 🔘	н						• •

化合物	R'	- <u>Ö</u> ,	R [‡] R¹ R¹	R.	R*	(i) (3) (8) (8)	R'		r R ¹ 3	R*	ŭ
\$8 Z	OCHs	4	-CH ₂	-сн ∗ ⊘-сн∍	Н	71	н	4	-∕⊙_CH1	-@ CH	н
50	н	2	- CH>	~CH2(O)	H		••	•	=-		•
63	H	3	-CH:	- сн₃⊘	н	?2	H	2	-⊚ č: н²	-©"	Н
GI	н	4	- ©	- ©	н	73	н	4	- ©	-⊚	J.
62	н	A	⊘-сн»	-⊘-сн•	H	74	н	2			
¢3	Н	4	-{⊙}-c, H,	- ⊘- C≀ H₃	н	1 ⁻ 15			-©	-©	11
64	н	4.	-(Q)-(CH3)≀ CH1	-⊚-(сн), сн,	н	77	Н	2		-©	11
€2	R	4 -	_ ⊙-снсн≱он₃	СНСН-1 СН	н	76	н	5	есн? -©	-© och:	1
Ç6	11	4	-∕⊙-{сн≱ з с нз	-⊘-{СН∮з СИз	н	77	н	2	-@-сн:	(O)(ON:	н
67	н	4	-(CH2) >	~ ⊙ −с (СН+)+	н	78 ·	н	2			-
50	11	4	-⊚	-Ю≻снь	н	19	П	4	-@-осн	-@-och	I:
69	н	4	_	-(O)-C2 Hs	Н	79	н	2	-@CH;	-⊚ сн,	ŀ
20	к	4	-©;- -⊗;-	.#3 .#3	н	80	н	2	CHs	-@	ŀ

傷腕58-190953 (5)

(L) (2) (M) (N)	R'	-⊕w ^R ,	ล,	۴,	R4	2 含 5 9	8,	-@ ^k ,″,	R*	R3	6.
\$1	н	2	-Oz Hs	<i>-</i> ⊚	H	93	н	4	-{O}-0C≥ H ₆	-{O}-¢H≀	31
65	н	2	-CH1	-{Q}-ocн₁	н	84	H	4	-{O}-ocн•	-(C)-C: H,	n
63	н	3 .	-©	-⊚	н	95	н	4	- <u>(0)</u> 5cH,	-O-CHi	н
84	H	3		-	, H	. 93	н	4	- © -ce	Ос, н,	11
85	Н	3	⊘-осн₃	-Ю-осн,	н	97	н.	4	-@-cs	-(⊙)-c¢	61
85	н	4	- ⊘ -ocii•	(⊙-och)	H				_	,C.E	
87	H	4	- <u>о</u> сн,	-⊗ ōch•	н	98	н	4	-©ুc*	-⊚	H
68	н	4		- ©	H	98	Н	4	- <u>©</u>	-© C#	11
89	н	4	-⊚ осн.	-⊚ осн.	н	100	н	4		-@	H
90	и	4			н	161	Ħ	4	–@ [¢] ₄	. - ©	н
91	н	4	(⊙)(oc, H,	-@	н	162	н	4	- <u>©</u>	-⊚	H
ð	H	4	-∕⊚-осн₁	-@-сн;	Н		٠				

1 .	R¹	-@**	R ¹	В,	R'	1	E ≜ Maria	R۱	-@√ ^R ,	R1	R* 	R4
105	н	4	- <u>О</u> _ _{GH} ,	-@	H			н	4	-CH ₃	-Ø ch,	H
īģi	н	A	-⊚_Cz Hs	9	H	1	15	н	. 4	-GHs	-⊚ ^{-¢н} '	Н
105	H	4	осн. ••©	-⊚	H	ŧ	16	н	4	-CH3	(O)OCH1	н
166	н	4	-© och,	-⊚	Н	ŧ	17	H	4	-CH3	-O−oci Hs	}i
167	н	4	-Ø-₩ (CH»)	· · - · · · · ·	н	1	W	Ħ	4	-¢H3	-Он.	H
108	н	4	-Ø-4 (C: H:	, <u>-</u>	н	ſ	19	н	4	-CH3	-Ø-N (C+H+1+	14
603	14	4 -	№ (СН») е	-(O)-N (CH1) 1	н	1	20	H	4	-CHs	- -	11
114	н	4 -{	O-H (C: H=) :	-(C)-N (C) H ₃) z	H	1	21	H	4	-C: Hs	-@	Н
111	H	4	-0H3	-⊚	H	1	22	н	4	-C: Hs	(C)CI-11	11
112	11	4	-CH2	⊘-оні	Ħ	1	23	н	4	-Ot Hs	-©,	71
113	н	4	-CH3		H		24	н	4	-Cr Hs	- <u>(О</u>)-Ст нь	41

機能58-190953 (6)

105 H 4 −CtHs −O−GCH3 H 133	R' H H	- © }	- (CH») » CH»	R³ - ⊘ -C#	R¹
125 H 4 -Ct Hs -O-GCH5 H 133		•		-{⊙}-C#	H
	н	4	1000 5 000		
126 Н 4 -СгН ₁ - <mark>©</mark>) Н 158			- (CH:) > CH:		Ħ
127 H 4 ~C1 Hs -{O}-OC2 Hs H	н	2	-CHs	<u>-</u> @	13
128 H 4 Cz Hs (O-N (CHs) z H	H	3	-CH ₃	- ©	н
129 14 4 -C2 H3 -O-CA H	Н	4	-сн₂ (О)	-⊚	FF
130 H 4 -1CHt) r CH , -(2) H	H	4	-сн₃⊙-сн₃	-⊚	#
13 H 4 - (CH2) 2 CH3 - O-CH3 H	н	4	-¢H₃ GH₃	-⊚	u
122 H 4 - (CH2) (CH3 - O-OCH3 H			СН в		
133 H 4 - (OHr) 2 CH3 - O-C# H	H	4	-сн.	-⊚	#
134 H 4 - (CH;) ; CH; -(O)-N (CH;) ; H	H	4	-¢н∙ ⊘-о сн₁	-⊚	11
135 14 4 (CHe) > CHs (O) CHs H	н	4	-сн∙Ф-ос∙ н•	· -@	Ħ
126 H 4 - (CH2) 2 CH2 - O-OCH2 H	Н	4	- сн₁	-⊚	н

-	元 物 助	R*	-@•́,	R*	Rª	R*
	148	Н	4	-CH+	~u. - ⊚	Н
	149	H	. 4 -	~сн∙@-с	4 - ⊘	н
	150	. н	a	-ch-Q	• •	н
	751	н	4	-CH≥© Ç£	-⊚	н
	152	H	3	-Сн₁�	- ⊚	н
	153	н	2	-CH2	-⊚	н
	154	Н	4	-CH:	-сн₃ -⊚	. н(са ³) ³
	155	H	4	-C+ H5	-C: H, -(0)	~N(C ₂ H ₅) ₂
	136	H	4	-Снэ	-CH ₂	@
	157	Н	4	-Cr Hs	-CaHs	@
	158	н	4 -CH2	©- осн	-сн.:(О)-осн.	н
	159	н	4	-сн з © «нэс	-сн.⊘	н

本発明感光体は、上記のようなステルベン化合物の1種又は2様以上を構光器2(2 1 又は2 *)に合有させたものであるが、これらスチルベン化合物の応用の仕方によって第1 巻、第2 図あるいは第3 図に示したごとくに狙いることができる。

第2図における感光体は、海電性支持体1上 に電材発生物質3をスチルベン化合物と結合剤 なからなる電子数磁媒体4の中に分散せしめた

お脚密58-190953(7)

感光展2~が設けられたものである。ここでの スチルベン化合物は結合剤(又は結合剤及び可 塑剤〉とともに常荷鞭送媒体を形成し、一方、 電荷発生物質3(無機又は有額額製のような増 為発生物質)が取荷組体を発生する。この場合、 電荷搬送媒体4は主として電荷売先物質3が発 生する重算担保を受入れ、これを搬送する作用 を担当している。そして、この感光体にあって は無荷発生物質とスチルペン化合物とが互いに、 主として可視複雑において吸収数長額域が整な らないというのが甚本的条件である。これは霜 得先生物質3に増荷担休を効率よく発生させる ためには電荷発生物質表面まで、光を透過させ る必要があるからである。一般式(I)で表わ されるスチルベン配合物は可視素域にほとんど 吸収がなく、一般に可視領域の光線を吸収し、 爾荷拉協を発生する電荷発生物質3と組合わせ た場合、物に有効に電荷推送物質として無くの。 ガその特殊である。

銀3回における態光体は、曝電性支持体1上

実際に本発明過光体を作成するには、第1回に示した感光体であれば、結合剤を潜かした溶液にスチルベン化合物の1種又は2種以上を溶解し、更にこれに増感染料を加えた液をつくり、これを導電性支持体1上に後右し乾燥して感光展2を形成すればよい。

版光明2の見さは3~50±a、作ましくは 5~20±aが適当である。 感光問2に占める

・スチルベン化合物の量は30~70億量%好ま しくはわりの販売%であり、また、成光観2に 占める滑頭染料の量は 0.1~5 重量光好ましく は 0.5~3重要%である。増糖染料としては、 ブリリアントグリーン、ピクトリアプルーB、 メテルバイオレット、クリスタルバイオレット、 アンッドバイオレット6Bのようなトリアリー ルメタン染料、ローダミンB、ローダミン6Q、 ローダミンGエキストラ、エオシンS、エリト ロシン、ローズペンガル、フルオレセインのよ うなキサンテン独特、メチレンブルーのような チアウン染料、シアニンのようなシアニン染料、 2.6-ジフェニリー4-(N、N-ダメチルア ミノフエニル) チアピリリウムパークロレート、 ベンゾピリリウム版 (特公昭 48-25658 紀分般に 笠敷) などのビリリウム染料などが挙げられる。 なお、これらの増感染料は単数で用いられても 2種以上が併用されてもよい。

また、第2回に示した感光体を作製するには、 1様又は2種以上のスチルペン化合 と結合剤 とを消解した溶液に電筒発生物質3の散散子を 分散せしめ、これを非常性支持体1上に値ちの 乾燥して保光器2~を形成すればよい。

職光想2~の厚さは3~5μ€、好ましくは 5~2049が適当である。態光間2~に占め なスチルベン化合物の量は10~95重量%、 好ましくは30~90重量%であり、また、咳 光離2~に占める電荷発生物質3の量は 6.4~ 50重点%好ましくは1~20重量%である。 個病発生物質3としては、例えばセレン、セレ ンーテルル、硫化カドミウム、硫化カドミウム ーセレンαーシリコンなどの無機模料、有機額 斜としては例えばシーアイピグメントプルー25 **(カラーインデックス○1 21180)、シーイア** ピグメントレッド (1 (C) 21200) 、ジーアイ アシッドレッド 52(CI 45100)、シーアイベ ーシックシッド3(CT 45216)、カルパゾー ル骨核を有するアソ原料(特関昭53-95033号公 担に記載)、ラスチリルベンゼン脅技を存する アソ額耦(特難原 53-133445号公根に記載)、

11M858-190953 (B)

便以上が併用されてもよい。

電荷発生器5の厚さは5μm以下好ましくは 2μm以下であり、電荷散送器4の厚さは3~ 50μm好ましくは5~20μmが適当である。 電荷発生器5が電荷発生物質の級粒子3を結合 剤中に分散させたタイプのものにあっては、電 時発生物質の数粒子3の電発生服5に占める

トリフェニルアミン舒核を有するアソ麻奴(特 周昭 53-132347月公銀に記載)、ラベンゾチオ フォン丹根を有するアソ領料 (特朗昭54-21728 号を誰に記載し、オキサジアソール奇様を育す るアゾ顕初(特別第54-12742号公根に記載)、 フルオレノン骨核を育するアゾ戯科(特別所54 **、22834月公報に記載)、ピススチルベン骨核を** 有するアソ政科(特別用54-17733号公将に監殺) 、ジスチリルオキサジアゾール骨技を育するア ソ類型(特別的 \$4-2129月公母に記収)ジスチ リルカルバゾール骨抜を有するアゾ額料(特別 昭54-14967号公督に記載しなどのアゾ諸邦、例 ·えばシーアイピグメントプルー16(C) 741 **66) などのフタロシアニン系展群、例えばシー** アイバットブラウン5 (ロー 73410)、シーア イパットダイ(CI 73030) などのインジゴ系 類料、アルゴスカーレットB(パイエル社製)、 インダスレンスカーレットR(パイエル社会) などのペリレン英族科などが挙げられる。なお、 これらの種荷発生物質は単数で用いられてや2

関合は 1 0 ~ 9 5 距 重 %、 好 ま し く は 5 0 ~ 9 0 至 直 % 程度で ある。 また、 灌 荷 鞭 送 暦 4 に 近 め る ス チ ル ベ ン 化 合 物 の 爵 は 1 0 ~ 9 5 更 量 % 好 ま し く は 3 0 ~ 9 0 建 即 % で ある 。

なが、これらいずれの歴光体製造においては 神像作支持体1に、アルミニウムなどの金属板 又は会乳筋、アルミニウムなどの会異を顕著し たプラスチックフィルム、おるいは、導電処理 を嫌した低などが用いられる。また、結合剤と しては、ポリアミド、ポリウレタン、ポリエス テル、エボキシ樹脂、ポリケトン、ポリカーポ ネートなどの糖合樹脂や、ポリビエルケトン、 ポリスチレン、ポリーNーピニルカルパゾール、 ポリアクリルアミドのようなピニル委合体など が用いられるが、胎様性でかつ治療性のある樹 館はすべて使用できる。必要により可能剤が結 合材に加えられるが、そうした可能剤としては ハロゲン化パラフィン、ポリ塩化ピフエニル、 ジメダルナフタリン、シブチルフタレートなど が例示できる。

質に、以上のようにして符られる感光体には、 物質性支持体と健定層の間に、必要に応じて接 物像又はパリヤ酸を設けることができる。これ らの間に用いられる材質としては、ポリアミド、 ニトロセルロース、酸化アルミニウムなどであ り、また機即は1gの以下が始ましい。

本発明の感光体を用いて被写を行なうには、感光面に指定、露光を施した様、現後を行ない、必要によって、毎などへ転写を行なう。本発明の感光体は感度が強く、また可捷性に高むなどの優れた利点を有している。

以下に実施例を示す。下記実施例において色はすべて乗量部である。 実施例 1

ベンジルホスホン酸ジエデル 8.85gく 0.63g モル)と、4-N、N・ジフェニルアミノベン ズアルデヒド 8.20g(0.030モル)をN、N-ジメチルホルムアミド40 m& に加え、これにナ トリウムメチラートの28%メタノール解散870g を10分で頻下した。臍下数48~50℃で4時間か

指開昭58-190953 (9)

さまぜを行なった後、経路まで放為した。反応 混合物をメタノール30 mg ついで水10 mg で着 終した後、折出した結晶を確取、水洗、乾燥し た。収費は 3.55g(収率91.7%)で、耐症は 151.5~ 152.5℃であった。酢酸エチルから質 結晶し、耐点 152.0~ 153.0℃の変数色針状結 品の4 - N、N - ジフェニルアミノスチルベン (我1 のNo. 61) を様た。

实施施2~27

電荷発生物質および振荷機送物質(ステルベン化合物)を表2に示したものに代えた以外は 実施終1とまったく同様にして療光体No.2 ~27を作成した。

86年高水香 (代合物香)	9	6	1 0	ï 9	0 1
班 华 米 菜 等	(О) ниос он кэсо оскз ко сомет-О (О) чг-м-ОО-ОО-м-к-ОО (О)	O-HANGO OH CZ CZ HED CODAH-O	Hac-O-hvoc on O-ch-ch-Ch-ch = 13 CH3 Ho con-O-ch Ho con-	O-HOROS OH N-N N-N LOS SOURCE-OS	OP-HAND OH O NO JORE-O
表 光 余	-	ŧ	m	*	es,

\$1

	T				
特迈亚冯黎女 (宋命答系)	~ ♥	- •	-	~	-
英 张 郑 拉	H1CO-(()-MANDC OH	か数 金ングロップリン	O-MONOE OH 13-00 DOCH HO CONH -O	(C)-13000 01 72 70 10 00001-(C)	#10 CH=CH-CD-CH=CH-CD-CH = # CH-CD-CH = # CH-CD-CD-CH = # CH-CD-C
完 名 谷		~	∞	p	0 [

有可克洛伯拉 (化哈伯洛)	\$ 20	01 4c	φ φ	10
4 高 彩 米 春 放	Н3-СО-кыюс он СН3 СН3 СН3 Во сомв-О-сн3 К СН-О-м-м-СО-сн3	(C)	(C)—BNOCO OH O HO DONB—(C) 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70	
表 在 4	™	<u>-</u>	e c	
电闭底运输效 (化合物系)	89		8	~
对 杂 光 彩 玩	H3C - CO	(C)-10x002 OM 0 0000-(C)	H3.C — 10-10-10-10-10-10-10-10-10-10-10-10-10-1	O-HNOS OH O NO SOUNH-O
经 在在	0 2	1 2	00 101	e e

在何湖送物页 (化会物成)	*	α\$ ←:	(21	
电角角 电路面	H3C O-H-CH-CH-CH = A CH3 TIO CONFIT-O-CH3 RECH-CO-H3	(C)-18-10 0 10 30-10-(C) (C)-18-10 0 10 30-10-(C)	H3.C. ○ -149.0C OH	C)-1100 OB O CONTE-CO)
光光存	~	8 8	9 N	64 6-

实施例28

原さわ 300 km のアルミニウム板上に、でレンを与さわ 1 km に実空競者して環初発生態を形成せしめた。次いでNo . 6 1 スチルベン化合物 2 M 、ポリエステル制能〈テュポン社製ポリエステルアドビーシブ 49000〉3 M おおよびテトラヒドロフラン 4 5 都を総合、 非解して電視の電視を対して、自然を提出した後、減低ででも増して使むり 1 0 km の電視機送器を形成せしめて、本発明の感光体No . 28 を得た。

突筋伤29

セレンの代りにベリレン系領科

を用いて電荷発生間(値し、停さは約 0.3 μm) を形成し、またスチルペン化合物をNo. 6 1 の代りにNo. 1 のものを用いた以外は実施例 28 とまったく間器にして曝光体No. 29 を 作成した。

灰施例30

かくしてつくられた感光体No. 1~30 について、市版の静電複写紙試験装置(KK別位電視駅作所割SP 428型)を用いて一6KV又は+6KVのコロナ放電を20秒間行在って答問せしめた後、20秒錯昭がに放散し、その時の表面電位Vpo(ボルト)を測定し、ついでタ

計翻録58-190953 (13)

				2-liking & C	200000 (10
ングステ	ンランプ光を感光な	・ 表値の思度が20	5	-1100	ð. 9
ルックス	になるよう照射して	その表面電位が	6	~ 1040	1.2
V 100 7	/ 2 になるまでのま	關(伊)を求め、	7	- 980	2.5
对光极层	1/2(ルックス・	砂)を算出した。	8	- 1200	2.8
その桁架	を衷るに示す。		9	990	2.6
また、	以上の各態光珠を用	厩の電子写真接写	10	-1020	2.2
護を育い	て呼聞せしめた模。	陳因を介して光虹	11	- 670	1.7
射色行存	って静電顕散を形成	せしめ、乾式現象	12	-1070	2.1
削を用い	て現象し、健らねた	面像(トナー面像)	13	- 630	1.2
を普通部	上に御僧転写し、定	着したところ、鮮	14	-1050	2.2
明な帳写	餌像が得られた。 現	機期として提式段	15	- 920	1.8
権制を用	いた場合も同様に質	明な眩写画像が見	18	-1100	1.3
られた。			17	- 930	0.8
	券 3		18	- 1050	1.4
母光妹	V Þo	E 1/2	19	~ 980	0.7
N c	(ポルト)	(ルックス・台)	20 -	- 1080	2.2
1	-1340	2.9	21	- 690	1.9
2	-1100	2.1	22	- 880	1.5
3	-1210	1.3	23	-1210	1.2
4 .	~ 1 2 9 0	3.9	24	-1020	1.6
2.5 2.8	-1130 -1050	1. 6 1. 8			
27	- 990	1.1			
28	-1110	2.5			
28	- 1 2 0 0	4.3			
3.0	<u> </u>	2.4			

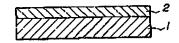
4. 図面の簡単な説明

第1回、第2回および第3回は本発明にかか むる電子写真想光体の厚さ方向に表大した勝道 図である。

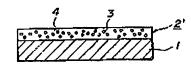
- 1 -- 導電性支持体
- 2、2"、2"~曝光器
- 3 … 荷荷希生物質
- 4 ~ 獨荷養送媒体又は電荷輸送履
- 5 一路荷発生器

初野出願人 株式会社 リコー 代理人弁理士 小松 頬岳

第 1 図



第 2 図



第 3 図



湖 紙

- 明報整第1頁第4行以下の特許請求の範囲を 下記のとかり訂定する。
 - 「 2. 特許請求の範囲

海電性支持体上化下記一般式(i) で表されるスチャベン化合物を少なくとも1 つを 有効成分として含有する感光層を有することを特数とする電子写真用感光体。

$$\bigcirc -CR = C - \bigcirc N - \bigcirc R^2 - \cdots - (1)$$

ただし、R¹ 対水米原子、アルキル菌、 アルコサン基またはハロゲ ン原子、

> R^{*}及びR^{*} はアルキル部、優 換もしくは無能換のアラル キル若または最換もしくは 無間染のアリル芸、

> R⁴ は水炭原子また状態数もし

手统加正哲

ш n s 7 4 5 л 20 9

- 2 発明の名称 ほ子写真用感光体
- 3. 物正をする岩

お作との機体 特許 出駅 人

7°*が ie が g,,,,, に 名(4A) 殊灾会社リコー に 名(4A)

4 代 選 人 〒107 (成前586-8854)

世 別 東京都港区赤坂 4 丁目 1 3 番 5 号 赤坂 7 フィスハイン 氏 8 (7899) 弁理士 小 後 男

- 5. 植正命合の日付 (自発)
- 6. 補正により増加する発明の最
- 7. 額正の対象

明朝者中、特許舒京の範囲差びに発明の評価

E MEONS MAOLED TEST

くは無匱淡のフェニル終を 扱わす。 J

2. 第5頁第1行の一般式(i)を下記のとおり都 正する。

$$C H = C \xrightarrow{\mathbb{R}^4} \mathbb{R}^3 \qquad \hat{} \qquad \hat{} \qquad (1)$$

3. 第7日第6行の一般式(M) を下記のとかり訂正する。

$$R \leftarrow C \qquad \qquad R^{1} \qquad R^{2} \qquad \qquad \dots \qquad (11)$$

- 4. 第26頁前4行の「5 pm 」を「5 0 pm 」 と訂正する。
- 5. 第39頁下ミりも行の構造式中右辺のCoHj を「CH,」と訂正する。

手 統 補 正 背

間和57年 S 月26日

特許疗長官 島 图 春 樹

1. 事件の表示

2 発明の名称 盘子写真用感光体

3. 簡素をする資

邻許出籍人 単作との関係

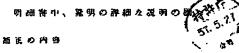
774* [F 19

式""衣(KB) (674)株实会往りコー

平107 (電話586-8854) 4. 化 泵 人

> **以京都港区赤坂4丁月13番5号** 穿坂オフィスハイン (7899) 弁理士 小 松 秀 击

- 9. 前正像分の日計
- 11. 確認により増加する発明の数
- 7. 加圧の対象



等級 補正 舞

昭和58年1月11日

特許疗長官 100 夫

1. 事件の表示 **骨颐昭57-73075**号

2. 発明の名称 電子写真用遮光珠

3、精能をする者

単作との関係 特胜出原人

(674)株式会社リコー

4.代理人 〒 107(電話588-8854)

奥尔郡港区赤坂4丁图13番 5岛

条坂オフィスハイツ

(7889) 弁理士

5. 補正命分の月付 (自 発)

6、植正の対象 明相書中、特許路求の範囲並 びに発明の詳細な説明

7. 補匠の内容

ニル」と訂正する。

11) 第25頁13行の「ジフェニリ」を「ジフェ

(2) 第30貫下より第2行の「8709」を 「870別と訂正する。

(3) 箱31頁末行の「化作物」を削除する。

(4) 第43頁第6行の「一950」を「+950」 と訂正する。

(別版)

1、昭和57年5月20日提出の手続補正数別점、 第1頁乃至第2頁配帳の特許書求の範囲を下足 の通り訂正する。

「2、特許額求の範囲

導電性支持体上に下紹一粒式 (1)で表さ れるステルペン化合物の少なくとも1つを有 効成分として含有する勢売用を有することを 符徴とする電子写真用感光核。

$$\bigcirc - CH = C - \bigcirc R^{*} - (1)$$

ただし、R!は水素原子、アルギルB。 アルコキシ基またはハロゲン 负子、

> R:及びR)はアルキルギ、賃 挽もしくは無震挽のアラルモ ル基または関挽もしく無管袋

時開船58-190953(16)

爭杭補正無

昭和58年5月12日

特許庁長官 褚 杉 和 夫 殷

- 1. 事件の表示 物類暗57-73075月
- 2. 発明の名称 親子卒寅用臨光体
- 3. 雑店をする肴

奉件との関係 特 野 出 郎 人

名称 (674)供式会社リョー

4. 代 環 人 〒 107 (電話 5 8 6 - 8 8 5 8)

- 5. 補正命令の日付 (自発)
- 6. 雑正の対象

明朝海中、発明の詳細な説明の贈

7. 補正の内容



(1) 昭和神朝21度の宋彦七台海No.159 の次 に下記のNo.188 、 161について海祖紀入 する。

のアリール舞、

わり。j

を「アリール基」と訂正する。

思りと訂正する。

2. 卵組貫舞 5 貨第 6 行乃至第 7 行の「アリル禁」

3. 第7頁第11行の「アリル基」をイアリール

R「は水凝筋子または解鉄もし

くは無層後のフェニル基を扱

以上

竹物	R'	- ⊘ א	R'	R†	Ķ;	R ⁴
160 ,	11	1		CH ³	- ⊘	H
1 §1	H	4		-©	-⊘-си	Н

- (2) 第32員第8万の「実施的 2~27」を「実施的 2~37」に、又、第10~11行の「爆光体No.2~37」に 31 まする。
- ((3) 初38萬の表の末葉に次のものを追加記入 する。

2 (AmA)

感光体 No.	舍 荷 発 生 物 剪	推為聯送物代 化合物No.
	* CH-(3-14-4) (3) 175 - (2) - 181-15 (3) 175 - (2) - 181-15 (3) 175 - (2) - 181-15 (3) 175 - (2) - 181-15 (3) 175 - (2) - 181-15 (3) 175 - (2) - 181-15 (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) - (3) 175 - (3) - (3)	68
29	(a) - HHAC (28) 6 40 (20) HAC (2	68
30	64) ByC - (0) - RISOC (0) ByC - (0) - RISOC	88
31	Q-1850C 001 3 70 1003S-{Q}	68
32	*CE-@-%*N-€ H3C-@-1180C OI H3C-@-1180C OI	100

清閒昭58-190953 (17)

建光练 No.	宿药免生物質	有百套送物質 化合物No.
33	(C)-HRIOT (CH) (C) (C) (C) (C) (C) (C) (C) (C) (C) (C	100
34	• CH-@-13-N-@- HD CONH-@-CH- (Q-N-01 - @-CH-CH-@-CH) HD CONH-@-CH) H3C CH-@-13-N-@- H3C	160
35	(A)-musc (ca) 20 cons.(c) ci	160
36	1 CH - (1) NO- CON - (1) 1 1/2 - (2)	161
37	©-muci as a so control	161

- (4) 第39頁第7行の「実施例28」を「実施税 38」に、又、同第12行の「感光体No.28」 を「選光体No.38」に訂正する。
- (5) 第39頁第13行の「実施例19」を「実施例 39」に記らする。
- (6) 第40頁第1行の「28」を「38」に、又「感光体No.29」を「感光体No.39」に盯 正する。
- (7) 飼養第3行の「実施例30」を「実施例46」 に、又、同資(4行の「感光性No.39」を 「感光体No.40」に訂正する。
- (8) 列第15行の「應光体No.1~30」を「應 光体No.1~40」に訂正する。
- (9) 第4関第3行の「27」の顔の次に下記を 追加し、第4~8行の「28」「29」(30) をそれぞれ「38」(39」「40」に訂正する。

ſ	28	-1300	1.2
	29	- 7 8 0	0.7
	50	-440	7.1
	31	- 7 7 0	0.7
	32	-1460	1.4
	33	-1110	1.3
	34	-680	1, 2
•	35	- 1 7 0 0	1.0
	36	-1440	1.4
	37	~1430	3.9 J

特許法第17条の2の規定による補正の掲載

昭和 51 年特許顕第 13075 号(特開 昭 56-198953 号, 昭和 58 年 11 月 8 日 発行 公開特許公银 58-1910 号掲載)については特許法第17条の2の規定による補正があったので下記のとおり掲載する。 6 (1)

1nt.C1.4	識別記号	庁内整理番号
G01G 5/06	103	7381-28
•		
	}	

明和神

1

1. 楚明の名称

粒子写真用感光体

2. 特許結束の範囲

事地性支持体上に下記一般式 (1) で表されるステルベン化合物の少なくとも1つを有効成分として含有する感光感を有することを特徴とする電子写真用思光体。

ただし、R 「は水準原子、アルキル巫、アルコキシ基またはハロゲン原子、R 2 及びR 3 はアルキル基、置換もしくは構置換のアラルキル基または置換もしくは無置換のアリールは 8 表わし、 R 2 及びR 2 のうち少なくとも一力はアルキル拡又は置換もしくは保置換のアラルキル振であり、

手統計 (6%)

平成1年2月 8 日

物許許長官 吉田文 敏 股

1. 事件の表示

昭和57年特許領第73075号

2. 楚明の名称

電子写真用超光体

3. 納匹をする者

お件との関係 特許出頭人

名 称 (874) 株式会社 リコー

4. 代 理 人

〒 107 (電話588-8854)

色 所 英京都港区が収4丁913番5号 参収オフィスハイツ

氏名 (7899) 弁理士 小 松 秀 点



- 5. 被正命令の日付 (自発)
- 6. 細正の対象

明朝春全文

7. 補正の内容

別紙のとおり



R・は水素原子または置換もしく は無関漢のフェニル芸を扱わす。

3. 発明の詳細な説明

本類明は電子写真用総光体に関し、詳しくは 感光層中に特定のスチルベン化合物を含有させ た電子写真用感光体に関する。

このような電子写真法において感光体に要求される基本的な特性としては、(1) 暗所で適当